

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名	うんどう☆ことばの教室		公表日	2025年 3月 31日
		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○部屋で色分けしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○配置数以上の職員を配置して支援にあっている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○部屋を色分けしている。 ○活動空間に十分なスペースがあり、個別療育等が落ち着いて取り組める環境になっている。 ○改善が必要と感じられることが生じた時には早急に対応できている。 ○事務所入り口の階段は現在、問題となっていないが、今後、対策が必要になることも予想される。	○施設入り口の階段については以前スロープの設置を検討したが介助スペースを確保できないために断念した。スロープの代替案を検討する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○毎日、掃除をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○必要に応じて、直ぐに個別対応できる態勢になっている。 ○個別で使用できるスペースが確保されており、クールダウンや個別療育に使っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○毎日のミーティングの中で子どもの状況を職員全員で把握し、今後の関わり等を話し合い、共有している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○スタッフ間で共有している。 ○イベントの後に懇親会を開催して意見を聞いている、	○頂いた意見を支援内容、環境整備等に活かしている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○毎日、朝夕にミーティングを行い、意見を出し合うようにしている。 ○把握する機会は設けられているが、もうすこしスタッフ全員から意見が出されるようになったら、もっともっと改善される機会が多くなる。	○ミーティングの他に業務改善提案書を新たに作成し、職員からの業務改善案などを広く収集し、可能な限り対応できるようにしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○今年度中に第三者委員会による外部評価を実施できるように進める。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○ミーティングにて話し合い、必要に応じて勉強会などを開催している。 ○年間計画に沿って行うように努めている。 ○少しずつではあるが研修を開く機会や受講する機会が増えており、今後も確保されると思う。	○外部機関により開催される研修への参加、外部講師を招いての社内研修の開催を図っていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○個々に合うようにしている。 ○事前に成長療育支援システム（HUG）上にプログラムを公表し、活動記録等でも内容を伝えている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○児発管の計画した個別支援計画をミーティング等で職員間の共有を図っている。 ○一回目は保護者の意向を中心としての作成になっているが、二回目以降は先を見通した検討が行われている。 ○職員全員でこどもの現状、今後の課題を話し合い、共有している。	

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<p>○ミーティングの場面などで共通理解できるようにしている。</p> <p>○まだ十分とは言えないが、何時でも共有できる環境は整えている。</p>	○紙に印刷した支援計画を読み込むだけでなく、成長療育支援システム（HUG）からも支援計画他をパソコンを使って確認することも行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<p>○気づいたことがあったら情報共有したり、発達検査（遠城寺式）などを使用している。</p> <p>○導入されつつあり、日々の行動観察、振り返り今後について検討している。</p>	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○支援計画は児発管、管理者が作成し、全職員で共有している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○週や月ごとにプログラム（運動や制作）をチームで考え、実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○運動や制作など、毎日違う内容、目的を設定して行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<p>○朝のミーティングで運動や制作等の狙いや内容を共有し、全体で連携を図っている。</p> <p>○療育前の朝のミーティングで、活動内容や当日利用する子どもを確認している。また制作、運動内容などの工程を・目的を伝えて共有している。</p>	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○一日のすべての支援を終了した後にミーティングを行い、改善点、疑問、成長などを共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○モニタリングではニーズや問題点をご家族と話すようにしている。	
関係機関や保護者と	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<p>○今後の課題。</p> <p>○スタッフ全員で子ども達を見て、状況が分かるようにしている。</p>	○対面での担当者会議等のを開けるように働きかけていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<p>○今後の課題。</p> <p>○TELでも直ぐに対応できるようにしている。</p> <p>○訪問をして情報の共有を行っている。</p>	○連携する体制は整えているので、今後は、関係機関との連携を図っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<p>○実際に訪問したり、TELやメールを使って相互理解を図っている。</p> <p>○保育所等訪問支援を実施し、連携を図っている。相互理解の点ではまだ難しい点があり、伝え方を考え、話し合っている。</p> <p>○必要と思われる利用者、保護者の意向に添って進められている。</p>	○これまでのやり方を見直し、改善点があれば速やかに対処を行い、情報共有と相互理解を深めていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○必用に応じて、また、保護者からの相談等に応じて計画し実施している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)		
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点	
の連携	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○今後、連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられるようにしていく。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○どのような活動が出来るのか検討して行く。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○送迎時に子供の様子、成長等を伝えあったり、保護者からの相談を聞いたりし、必要な時にはその都度面談を実施している。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○家族との関わり方も大事と捉え、保護者の悩み等に管理者が常に耳を傾け、寄り添っている。 ○家族支援プログラム(公表済み)の実施を行い、家族の対応力向上を図る。また、開催しているイベントにおいて交流の機会を設けているが、さらに、外部講師による勉強会なども企画していく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○管理者、児発管が行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○管理者、児発管が行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○個々に対応している。	○様々なツールを使って保護者の悩み事を聞き取り、素早く対応するようにしている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○イベントを開催し、その際に懇親会を設けて交流できるように図っている。	○イベントの内容、開催時期等を見直し、さらに交流できる機会を増やしていくように検討して行く。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○責任者と共有し迅速かつ適切に対応している。	○様々なツールを使って保護者の悩み事を聞き取り、素早く対応するようにしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○HUGに活動内容を載せている。	○成長療育支援システム(HUG)、ホームページを使って発信しているが、発信回数や発信内容を見直しを図っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○鍵付きの書庫を使用している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○子供のみならず、保護者の様子を気にかけて、気になった時には情報を職員間で共有している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○利用者のイベントを行っているが、地域住民との交流は出ていない。	○地域住民を交えたイベントはハードルが高いが、長期的な目標として掲げ、実現できるように努めていく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○避難訓練を行っている。 ○マニュアルが多いので、なかなか職員に周知することが困難である。簡易版のマニュアル作成なども含め、確実にマニュアルで定めた事項が実施できるように図る。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○災害を想定した避難訓練を実施している。 ○実施しているが、まだ訓練が必要である。 ○BCPや安全計画に沿った研修、訓練を実施していく。	

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○アセスメントで確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○医師の指示書に基づいて対応している。スタッフ全員がアレルギーに関しての知識等を得るように図っていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○ヒヤリハットを全職員で共有し、全体で改善点等を話し合っている。	○ヒヤリハットの事例が少ないので、もう一度、ヒヤリハットの目的、重要性を周知していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○気になる様子があった場合には身体チェックなどを行うようにしている。	○マニュアルに沿って対応している。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		○マニュアルに沿って対応している。